



デジタルアーカイブ

第1回村民体育大会は、昭和38年8月・9月に開催されました。昭和31年に飯館村と大館村が合併して飯館村が誕生して7年。東京オリンピック初開催の前年にもあたります。初めての村民体育大会は、飯館方部と草野方部、2方部に分かれての開催でした。

第1回大会については、昭和38年9月15日発行の「飯館村公民館館報」に記事が掲載されています。「飯館方部大運動会」は飯館小学校・中学校の校庭や体育館を使って開催され、小学校会場には約1000人が集まったと書かれています。「草野方部村民体育大会」は、館報発行後の開催だったために、告知記事のみが掲載されています。

翌年の第2回大会からは

統一され、全行政区対抗の「村民体育大会」が実施されています。以降は村民総出の恒例イベントとなりました。

年代を問わず楽しめるアイデア競技あり、本気モードの陸上競技あり、熱気あふれる球技あり。多くの村民が、行政区の誇りをかけ、一方では笑いと感じ動に包まれて、年に一度の大会を楽しんでいました。

子どもはもちろん大人も童心に返って競技を楽しむ様子は、飯館村デジタルアーカイブの写真で振り返ることができます。（※村民体育大会で検索）

また、全村避難で途切れた村民体育大会の復活開催を望む声は止まず、今年、村民スポーツ大会として9月16日にパークゴルフ大会が開催されます。



平成20年の第45回大会。大きな長靴をはいて本気のダッシュ。応援席では行政区の旗がひるがえります。



第1回・草野方部村民体育大会の「自転車“遅乗り”競争」。観客も盛り上がりそうなユニークな競技です。

おすすめ図書

ふれ愛館だより

交流センター「ふれ愛館」からのお知らせです。



ばあばは、だいじょうぶ
楠章子 作
いしいつとむ 絵
童心社

孫のつばさはばあばが大好き。ばあばに「だいじょうぶだよ」って言ってもらえるとすごく安心する。そんなばあばは忘れてしまう病気なんだって。ばあばが別人のようになって怖くなっちゃったけど…ばあばを想う優しい気持ちに胸が熱くなる物語。



オレンジ・ランプ
山国秀幸 作
幻冬舎

主人公の男性は39歳で若年性アルツハイマー型認知症と診断されました。しかし、認知症になったからといって人生が終わる訳ではないことを、この本は教えてくれます。ある家族の、認知症と共に生きる実話を元にした感動の物語。

9月21日は世界アルツハイマーデーです。交流センターでは、認知症に関する本を掲示してありますのでぜひ手に取って読んでみてください。

いいたて
イノサル通信

シカとカモシカ ～似ているようで結構違う～

最近、住民の方から、何度か村内でカモシカを見たという話を聞きました。また、シカも村内にある調査用の自動撮影カメラに写っていたことがあります。シカとカモシカは、名前や見た目が似ていますから、混同されやすいかもしれません。そこで、今回はシカとカモシカの違いを紹介します。



村内で撮影されたシカ
(2023年6月)

【シカ】

正式にはニホンジカといいます。シカ科に属しており、ツノがあるのはオスだけで、毎年春頃にツノが抜けて、生え変わります。2歳以上ではツノは枝分かれしています。また、夏の間は体に白い斑点の模様があります。西日本から北関東あたりまでの範囲に多く生息していましたが、1978年から2014年までの間に、生息している範囲が2.5倍に広がっているといわれています。福島県では、以前から会津地方に生息していて、近年では阿武隈山系や浜通りでも僅かに生息が確認されています。（環境省 自然環境保全調査2015年）



シカは草や木の葉、木の皮などを食べます。農業や林業に大きな被害をもたらしており、農林水産省の集計では、2022年度のシカによる農業被害額は約65億円と算出されています。この集計によれば、全国の鳥獣による農業被害のうち、42%がシカによるものです。



村内で撮影されたカモシカ
(2024年5月)

【カモシカ】

正式にはニホンカモシカといいます。名前はシカのようなですが、ウシの仲間です。オスもメスもツノがあり、ツノは生え変わりません。ツノは短く、枝分かれしません。中部から東北を中心に生息しており、一時は乱獲されて数が減りました。国の特別天然記念物に指定されています。



カモシカは低木の葉などを食べる事が多く、イモ類の葉を食べられたりする農業被害や、植林された木の葉を食べられる林業被害が発生することもあります。農林水産省の集計では、2022年度のカモシカによる農業被害額は7,300万円と、決して油断はできませんが、シカに比べると被害が小さい動物といえます。



動物を見分けることの意義

一見よく似た動物でも、生態や食性が違えば、被害の出しやすさや被害の内容が異なります。正しく見分けることが、対策の必要性や手段を適切に判断することに繋がります。そのカモシカ、シカかも!?

イノサル通信は村の鳥獣対策を支援する京黒さんからのお知らせです。



福島県避難地域鳥獣対策支援員
きょうくろ あつし
京黒 篤志 さん

令和3年1月から福島県避難地域鳥獣対策支援員を務めています。令和6年度から飯館村の主担当となりました。